

平成 29 年度 神奈川県立藤沢総合高等学校 第 1 回学校運営協議会 会議録

日 時 平成 29 年 7 月 25 日 (火) 13 時～14 時 30 分

会 場 藤沢総合高等学校 会議室

出席者 学校運営協議会委員

佐野朗子委員 (校長)、横山俊明委員、長谷川功委員、上條茂委員、原雅子委員
(欠席者 戸田順教委員、川上隆委員、加瀬良一委員)

学校職員

草野義嗣副校長、石倉一史教頭、本村一成総括教諭、高梨昇総括教諭、
今村玲総括教諭、長瀬右文総括教諭、宮入啓治総括教諭、梶原実総括教諭、
松長智美教諭、田中友吏子教諭

内 容

I 校長より

(1) 挨拶

神奈川県では高校改革が始まり、本校は 1 年次生が Semester 制を導入している。全日制総合学科高校 7 校で必修科目や系列をそろえ、総合学科として、生徒に身に付けさせたい力を共通化させている。さらに本校は、改革の一環でコミュニティ・スクールの指定を受けた。昨年度は 5 校、今年度 26 校、来年度 50 校が指定を受け、平成 31 年度からすべての県立高校で導入されることとなっている。

子どもの成長のために、皆さま方のご意見を学校運営に反映させたい。今まで以上のお力添えをお願いしたい。

(2) 学校運営協議員の委嘱

(3) 出席者の紹介

学校運営協議会委員、学校職員の自己紹介

(4) 会長及び副会長の選出

互選による選出

※選出結果

会長に長谷川委員、副会長に佐野委員が選出された。

II 会長より

会長は荷が重いし不得意ではある。藤沢総合高校では相場校長の頃から長く評議員だった。皆さんの意向に沿うように、また、藤沢総合高校の発展のために、微力ではあるがお手伝いをさせていただく。

Ⅲ 報告事項

1 コミュニティ・スクールの概要

(県から発行されているコミュニティ・スクールの手引きに沿って、概要を説明)

○コミュニティ・スクールとは

・「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みを持った学校のことである。

○コミュニティ・スクールの3つの機能

・学校運営に関して、教育課程の編成その他教育委員会規則で定める事項について校長が作成する基本的な方針の承認を行う。

・学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。

・教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができる。

○コミュニティ・スクールの目的

・学校運営に保護者や地域の方々が参画して、学校の課題や目標を共有し、教育方針や教育活動について一緒に熟議を重ね、地域ならではの創意や工夫をいかした教育活動を展開するなど、より良い教育の実現に向けて協働することをねらいとしている。

・コミュニティ・スクールのメリットと魅力は、組織的・継続的な体制の構築、当事者意識・役割分担、目標・ビジョンを共有した「協働」活動が図られることである。

○コミュニティ・スクールの仕組み

・『不易で価値ある教育の実践を重視し、着実にかつ先進的に取り組むこと』とする、かながわ教育ビジョンの「かながわらしさの一つ」を踏まえた取組である。

・高校における「地域」とは、学校通学地域を限定せず、神奈川県全域を広く「地域」と捉えることもできる。

○コミュニティ・スクールの取組の流れ

①現状と課題の整理・目標の共有

②学校運営協議会の組織を構想

③委員の選出

④学校運営協議会の運営

⑤学校運営協議会活動状況報告書の提出

Ⅳ 協議事項

1 平成29年度学校運営基本方針の承認

○学校教育計画

・神奈川県教育委員会から学校ごとにミッションが渡され、平成28年度から4年スパンで学校教育計画を作成している。5つの視点から4年間の目標を作成した。

○学校ランドデザイン

・本校の教育方針の3つの柱を軸に、学校教育目標を立て、それを基に学習活動と体験活動に重きを置き、社会貢献できるような生徒の育成を目指している。

○学校目標

・5つの視点で平成29年度学校目標を作成した。主体的・協働的に学ぶ力、想像力や論理的思考力、社会に出て必要な力を身につけさせたい。そして、地域に根差した学校づくりを進めていく。

○教育課程

- ・改革後の入学である1年次生から、卒業単位を80単位に増やした。また、すべての総合学科高校で国語・数学・英語の必修教科を増やした。特に本校では、国語について、1年次で国語総合、2年次で現代文A・Bの選択、3年次で国語表現と、3年間通じての学びを継続的に指導していく。また、1年次生では地理Aを必修化し、グローバルな人材の育成にも力を入れていく。

○学校組織

- ・専任が64名である。12名分の総合学科の加配をもらっている。専門的な知識が必要な科目も多々あるため、時間数をく다いて、必要な講師をお願いしている。また、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの拠点校となっているため、教科指導以外の面からも生徒を支える体制が整っている。

※承認

- ・平成29年度学校運営基本方針（学校教育計画、学校グランドデザイン、学校目標、教育課程、学校組織）について承認された。

2 学校運営協議会の運営

○部会組織

- ・3つの部会を考えている。「学校評価部会」は委員の方全員にそのまま入っていただき、その他に「地域連携部会」と「キャリア教育部会」の設置を考えている。

○平成29年度日程

- ・年間3回から5回の開催が定められている。今年度は3回の開催の予定である。第2回は10月中旬から11月上旬に行う予定である。10月の18日から20日の学校に行こう週間に行うことを検討中である。第3回は3月上旬に行う予定である。

○学校運営協議会の公開

- ・第2回学校運営協議会から公開することを考えている。

※承認

- ・学校運営協議会の運営（部会組織、平成29年度日程、学校運営協議会の公開）について承認された。

V 意見交換

1 藤沢総合高校の現況

（各グループの総括教諭より、現況の説明）

○カリキュラムグループ

- ・転出者・退学者の人数はここ数年減少傾向にあるが、昨年度は増加している。今年度は現時点では転出者2名、退学者1名。10名以内におさえたい。
- ・本校では3年前から遅刻指導を取り入れている。3年間遅刻者数は減少傾向にあったが、昨年度は増加している。今年度も7月現在でやや人数が多めである。対策を講じていきたい。

○生徒支援グループ

- ・遅刻指導として、反省文や清掃を行っている。対象者は、1年次生は6回以上、2、3年

次生は10回以上遅刻をした者。7月は5回以上遅刻をした者を対象としたが、該当する生徒はいなかった。

- ・教育相談では、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの拠点校となっている。スクールカウンセラーは生徒のカウンセリングにあたり、スクールソーシャルワーカーは外部機関等とのパイプ役となる。本校ではスクールカウンセラーの来校日が少ないため、スクールソーシャルワーカーも生徒面談等を行っている。

○総合推進グループ

- ・本日より夏季連携講座がスタートしている。将来を考えるために生徒に参加を進めているがクラスによって参加者のばらつきがでているのが課題となっている。
- ・新入生対象アンケートの結果から、進路に関わる項目が本校でやりたいこととして上位にあり、いろいろな活動を進路とリンクさせていくことが課題となっている。また、生徒は学力だけでなく、礼儀やマナー、言葉遣いを身に付けたいと考えていることもアンケートの結果から分かった。昨年度との違いはあまりない。

●委員からの意見

- ・現代の子どもは家庭などであまり叱られる機会がない。そのため何がよくて何が悪いのか自信がない。このことが、礼儀やマナーを身に付けたいと考えることにつながっているのではないか。

○ガイダンスグループ

- ・平成29年3月卒業生に進路については、専門学校へ進学をする生徒が減少し、大学へ進学をする生徒が増加している。AO入試や一般入試を受験する生徒も増えており、安易な道を選ばない生徒が増えたのではないか。
- ・「産業社会と人間」の授業で、生徒が働く人へインタビューをする单元がある。礼儀やマナーを身に付けさせることも目指している。

○生徒活動グループ

- ・部活動は、運動部の3年次生が引退し、2年次生中心に行われつつある。部活動の加入率が低下傾向にある。大部分の運動部で人を集めるのに苦勞をしている。
- ・大きな行事としては6月に体育祭が行われた。今後は9月末に文化祭がある。例年よりも少し早目であり、各係・委員会が準備を進めている。昨年度に引き続き花火を打ち上げる方向で調整中である。

○副校長、総務グループ

- ・藤沢総合高等学校NEWSに年次ごとの遠足や外部講師による授業が掲載されている。
- ・長後共育フォーラムの方の協力のもと田植えを行った。6月には、PTAや地域の方々と協力してコスモスの種まきを行った。

●各委員からの意見・感想

- ・学校での取組がよくわかった。第2回の授業等の見学が楽しみだ。
- ・この関わりを機会に、中高の吹奏楽部の合同練習なども行いたい。
- ・長後中学校では「挨拶をすること」「時間を守ること」「場をきれいにすること」の三つを掲げ、自立した人間を育てる教育活動に取り組んでいる。
- ・学校の取組について聞くことができ、教員が生徒と丁寧に関わっていることを知ることができた。

- ・藤沢総合高校の生徒は素直でよい子が多い。校外での活動も積極的に行わせてほしい。
- ・長後共育フォーラムは「荒れる中学校問題」を受けて、学校だけでなく地域で教育に関わっていかうとする取組から出来上がった。長後を地区で区切ることはせず、長後中学校と高倉中学校の両学区をもとに立ち上げた。主な活動は、参加団体に情報を共有するコーディネーター的な役割と、長後地区を知ってもらうことである。地域関係者として、地域の役割を考えながら学校と関わっていききたい。
- ・組織図では学校運営協議会の位置が高いところにあるが、学校や先生方と協力するという形で運営を行っていききたい。

VI 連絡

1 本日の部会

各部会にわかれて、顔合わせと部会長の選出を行う。その後、部会ごとに解散とする。

※部会長の選出結果

- ・地域連携部会 … 横山委員
- ・キャリア教育 … 川上委員（後日依頼）